

平成26年8月25日

伊那市議会議長 伊藤泰雄殿

伊那市議会総務委員会
委員長 黒河内 浩

総務委員会行政視察結果報告書

総務委員会では下記の日程、内容で行政視察を実施しましたので、ここに結果報告書を提出します。

なお、報告内容についてはポイントを絞り、添付資料については議会事務局で掌握していますので省略させていただきます。

視察日程 平成26年8月18日（月）～20日（水）

視察内容

1. 南アルプスを取り巻く、「ユネスコエコパーク」・「ジオパーク」関連事業の確認と研修
2. リニアに対する問題点と現時点での対応
3. 南アルプスユネスコエコパーク加盟10市町村との友好親善

視察場所

1. 山梨県 北杜市 サントリー 白州工場
2. 山梨県 南アルプス市
3. 山梨県 早川町
4. 静岡県 川根本町

南アルプス市（山梨県）

1. 視察に対する対応

- ①南アルプス市芦安山岳館（旧芦安村当時に国の補助金により完成）にて、館長並びにユネスコエコパーク担当職員により説明。
（*山岳館は市の山岳観光の拠点施設で山小屋等の南アルプス登山の歴史に関する歴史や資料等が展示してある。）

- ②南アルプス市議長とは市役所議長応接室にて対応してくれ懇談する。

2. 取り組み状況

*事業の担当―「ユネスコエコパーク推進室」

南アルプスガイドクラブが活動し、公認ガイドによる組織を設立している。
その他、登山道の整備やユネスコスクール加盟の小学校、中学校の学校登山の実施等

ユネスコエコパーク認定に向けて住民説明会を実施してきた。



ユネスコエコパーク認定 → これから具体的な運営に本腰を入れる。
（*これまでの自然との取り組みが評価されたものと思っている。）

*議長との意見交換内容

- ・隣同士の市であり、交流促進を積極的に図りたい。
- ・3県の組織に議会としての取り組みが必要。
- ・林道バスの相互直通運行に取り組みたい。
- ・9月27日のジオパーク全国大会には出席する。

3. 課題

- ①3県での構成するあり方が課題 → 地域間交流の拡大が必要



（*現在は担当者だけのカレッジで終わっている）

地域住民への周知と参画が必要

- ②企業との参画、企業との協働提携が必要

（*ユネスコエコパーク認定後企業からの問い合わせが多い）

早川町（山梨県）


1. 視察に対する対応

町長自らがマイクロバスに同乗し、町の状況やユネスコエコパークへの取り組み状況、さらにはリニアの通過にたいする取り組みを説明してくれ、さらにその後の意見交換会でも町長としての思いを説明してくれた。


（視察は2時間30分に及ぶ）

議長も意見交換会に出席し、対応してくれた。

*全国一人口の少ない町として有名で、合併しないことで名をはせた

 町長として9期目で、全国でも有名町長

2. 取り組み状況

- ・東京の品川区との交流を図っていて、毎年品川区から小学生が来ている。
- ・三菱自動車との間で「パジェロの森」の名称で協定を結び、山の再生活動を実施している。
 企業の力、資本を借りて事業に取り組んでいく（町長談）。
- ・具体的な取り組みはこれからで、「南アルプスエコパーク 早川」を訴えていきたい。
- ・リニアが町内を通過するため、その対応をしている。
- ・9月27日のジオパーク全国大会には、町長・議長ともに出席する。

3. 課題

- ・積極的にユネスコエコパークに取り組んで行きたいが、今以上の情報発信のあり方が課題。
- ・企業の力・資本力を活用していきたい。
（自治体の予算だけで各種事業を推進して行くことは困難がある）
- ・伊那市と南アルプス市との林道バスの相互直通運行は実施するよう取り組みたい。
- ・南アルプスの自然保護のためにも国立公園内といえども鹿からの保護柵設置を実現していきたい。
- ・リニア事業については、300万立方の残土が出るので、半分はバイパス事業に投入するが、残りは町内で処理することが大きな課題。

川根本町（静岡県）

1. 視察に対する対応

副議長が終始出席し説明してくれた（町長・議長が中国へ出張のため）

2. 取り組み状況

*事業の担当—商工観光課）

→ 具体的な取り組みはこれからである

現在のところは、エコツーリズムで推進している

ユネスコエコパーク登録に向けた取り組みをDVDにまとめて、市民向けの説明用に作ってあった。

（*感想として—取り組み内容がよくまとまっていて理解しやすかった）
登録承認後に「簡易うちわ」の作成、のぼり旗や横断幕の作成をした

3. 課題

・ユネスコエコパークに対する住民に対する認知が足りない。

→ 事業に対する住民の理解が必要

・関係自治体の連携が必要であり、課題。

・リニア事業については、町の上流を通過するため、水源に影響が出て、水流が減少するのではないかと心配している。

サントリー 白州工場（ミネラルウォーター製造過程）

（山梨県北杜市）

1. 視察に対する対応

一般の見学とは区別し、東京の本社とも連絡を取り丁寧な対応。

（*このような視察は初めてのこと）

2. 取り組み状況

水を扱う企業として、「天然水の森」の整備し、自然環境の保全に取り組んでいる。



次世代環境教育 {水育}

① 森と水の学校

小学校3～6年生とその保護者を対象に、大自然の中での体験を通じて、水をはぐくむ森や自然の大切さを体感する。

② 出張教育

小学校4・5年生を対象に小学校で映像や実験を通じて、自然の仕組みや大切さを学ぶ。

3. 感想

- ・自治体だけでは予算的な制約もありできないことを、民間企業の力を借りて自然環境の保全を図っていくことも積極的に検討する必要がある。
- ・企業側にとっても、社会貢献活動を行っていることが企業イメージのアップにつながる。